

JRIS

鉄道車両－押ねじの標準

JRIS R 0110 : 2005

(JARI)

平成 17 年 3 月 3 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

社団法人 日本鉄道車輛工業会 発行

まえがき

この規格の前身となる **RIS 110** は、1997 年の改正で **RIS 110A** として登録されて以来、見直しが行われていなかった。

今回の **JRIS** 化に当たり、製造実態と異なる部分を解消するため“使用ひん度の著しく少なくなったもの”及び“入手法が悪く選定されなくなったもの”を中心に見直しを行い、“日本鉄道車輛工業会規格の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定した鉄車工規格である。

今回の制定にあたって、環境対策に関する事項について配慮し、製品使用の標準化をはかった。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。会長及び鉄車工規格審査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002（平成 14）年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：RIS”は、1969（昭和 44）年代の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化（共通使用）、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。近年、JIS は国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、RIS は鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来の RIS の制定方針に沿う標準と新しい JIS の考え方に沿う標準との複数で構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003（平成 15）年 1 月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：RIS”は、順次“鉄車工規格：JRIS の R シリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。

改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身の RIS の番号の前に零（0）を加えて四桁の番号で構成する。

なお、2003 年以降新規作成・登録する“R シリーズ”の規格は、1001 番からの追い番号で登録する。

JRIS は、関係する技術分野に応じて四つに区分した体系で構成していて、この規格の“R シリーズ”のほか、“D”、“E”、“J”シリーズがある。

目 次

	ページ
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 記号及び種類	1
4. 押ねじの選定	1
5. 材料	3
6. 品質	3
7. 製品の呼び方	3

鉄道車両－押ねじの標準

Rolling stock – Designing guidelines for captive screw

- 1. 適用範囲** この標準は、鉄道車両の客室、運転室の点検ふたなどに使用する押ねじについて、形状・寸法・種類・材質等を規定する。
- 2. 引用規格** 次に掲げる規格は、この規格を引用することによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。
 - JIS G 4303** ステンレス鋼棒
 - JIS H 3250** 銅及び銅合金棒
- 3. 記号及び種類** 押ねじは、記号、頭部形状、ねじ径及び種類（ねじ長さ）によって表 1 のように 4 種類に区分できる。それぞれの詳細寸法は、付図 1～付図 4 による。

規格概要のため以下は省略する。